

2014年度(平成26年度)11月20日(木)

2014年度(平成26年度)生涯学習振興・社会教育関係職員研修
【施策立案研修】個人演習発表

多文化共生で豊かな社会に

～外国人市民の力は地域の宝～

福山市松永生涯学習センター 常友浩子

福山市の「多文化共生社会の実現に向けて」の取組

2007年(平成19年)～ 第4次福山市総合計画策定
2016年(平成28年)

『市民が世界の人々と共に生きるまち』

2009年(平成21年) 福山市国際化推進プラン策定

2014年(平成26年) 第4次福山市総合計画後期基本計画

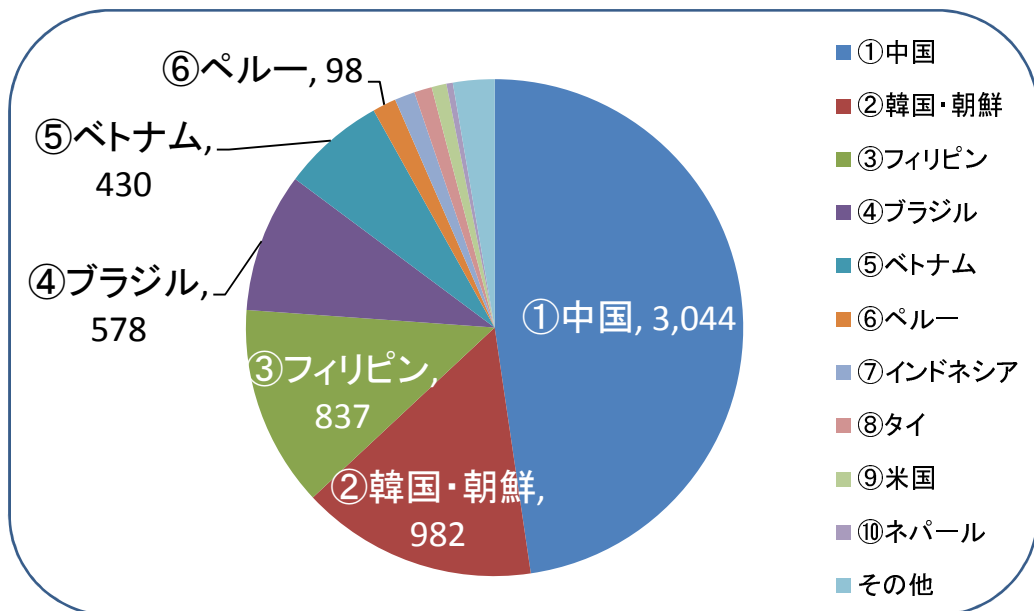


『外国人市民が生活しやすいように、生活全般にわたって外国人市民の自立に向けた支援に努めるとともに、お互いの違いを認め合い、地域社会の一員として、ともに生活できるまちづくりを推進する』

外国人市民は、支援してあげる存在ではなく、対等な関係で、お互いの力を出し合い、支え合う、「まちづくり」になくてはならない存在

福山市に住む外国人市民の現状

6,387人 51カ国 (2012. 07. 06現在)



外国人相談窓口

1992年より ポルトガル語
スペイン語

2004年より 中国語

松永支所 ポルトガル語
英語



地域の日本語教室

市内に10カ所
ボランティアの養成
国際交流協会ワンペアレッスン

生活のこと、就労のこと、子どもの就学のことなどを
気軽に相談できるシステムが整っていない

公共施設をいかに利用するか？

コミュニティセンター
(19館)

生活・就学・就労・人権相談
日本語教室の開設

公民館(79館)

社会教育講座開設
地域の民主団体支援

生涯学習センター
(6カ所)

公民館・コミュニティセンター支援
フォーラムやフェスティバル開催
人材育成

人権推進課

生涯学習課

市民相談課

市民課

生活福祉課

小中高等学校

ハローワーク

市内の大学

公民館・コミュニティセンターを、一番身近な相談窓口として、
行政各課とのより一層の連携が必要

外国人市民や支援団体の方の声

公民館に気楽にいくことができなかった。ルールが多過ぎて外国人にはわかりにくい。日本人には、暗黙の了解があるようだが、はっきり言ってくれないとわからない。



国によっては、公共施設は、一般市民が入れない場所。日本でも、図書館や公民館は行ってはいけないと思っていた。



自治体単独より、NPO団体との連携や市民協働で事業を行う方が効果的。今後は、地元の大学とも連携し、国際理解のための若者の人材育成に取り組みたい。



公民館・コミュニティセンターの効果的な活用

多文化共生センターの設置を目標に！！

集い・交流・相談・理解・参画

外国人市民の
自主・主体的な活動の支援

そこで・・・多文化共生社会の実現に向けての提案

①外国人市民対象のアンケートの実施

ステップ①

②転入外国人市民への案内(市民課)

③転入したら、まず「公民館」・「コミュニティセンター」へ

ステップ②

④多文化共生講座の開催

⑤日本語支援者・生活支援者講座の開催

⑥外国人市民の講座講師・ボランティア通訳の登録

ステップ③

⑦フェスティバルの開催

⑧地域の行事へデビュー

⑨日本の暮らし方講習会

⑩多文化共生センターの開設

具体的な取組内容

①アンケートの実施

外国人市民にアンケートによって実態を把握し、行政サービスに結び付ける

②転入外国人市民への案内(市民課)

多言語「くらしの便利帳」配布
最寄りの公民館の紹介

③転入したら、まず「公民館」・「コミュニティセンター」へ

公民館・コミュニティセンター職員研修・わかりやすい日本語での対応
一番身近な相談窓口としての役割

④多文化共生講座の開催



⑤日本語支援者・生活支援者講座の開催

日本語支援ボランティア養成
生活支援のボランティア養成

⑥外国人市民の講座講師・ボランティア通訳の登録

外国人市民が自らできることを登録し
活躍の場を持つ

⑦フェスティバルの開催

ワンワールドフェスティバル
多文化共生のまちづくりフォーラム



⑧地域の行事へデビュー

⑨日本の暮らし方講習会

⑩多文化共生センターの開設

取組内容と見込まれる成果・効果

生涯学習センター

- アンケートで外国人市民の意見を集約
- 転入時に地域の公民館・コミュニティセンターを紹介(市民課と共に)
- 職員研修の実施
- 人材育成(日本語支援者・生活支援者講座の開催)
- 日本語教室の開設支援
- 多文化共生フォーラムやイベントの開催
- 日本の暮らし方講座の企画
- 多文化共生センター準備会の運営

市民課

人権推進課

生涯学習課

市民相談課

生活福祉課

公民館・コミュニティセンター

- 地域の外国人市民の把握
- 職員研修で習得した、わかりやすい日本語での対応
- 自治会加入のすすめ、行事への誘い
- 「多文化共生講座」の開催
- 日本語教室の実施支援
- 外国人市民講師・ボランティア登録
- 生活支援者・ボランティア通訳者の紹介
- 日常的な相談窓口・日本の暮らし方講習会・相談会の実施

日本で暮らす外国人市民の不安を解消。住民どうしの結びつきや共助の気持ちを育み、安心して住み続けることで、まちづくりに参画する人材が増えることにつながる。

具体的な取組内容

外国人市民

- アンケートに答える
- 地域の公民館・コミュニティセンターを知る
- 多文化共生講座の講師登録
- ボランティア通訳の登録
- 多文化共生フォーラム・イベントの企画運営に参加
- 自治会活動への参加
- 地域行事への参加
- 外国人コミュニティ団体をつくる
- 多文化共生センター準備会参加

同じ国の人とのつながりができ、この国で自分自身が活躍できる場があり有意義に過ごせる

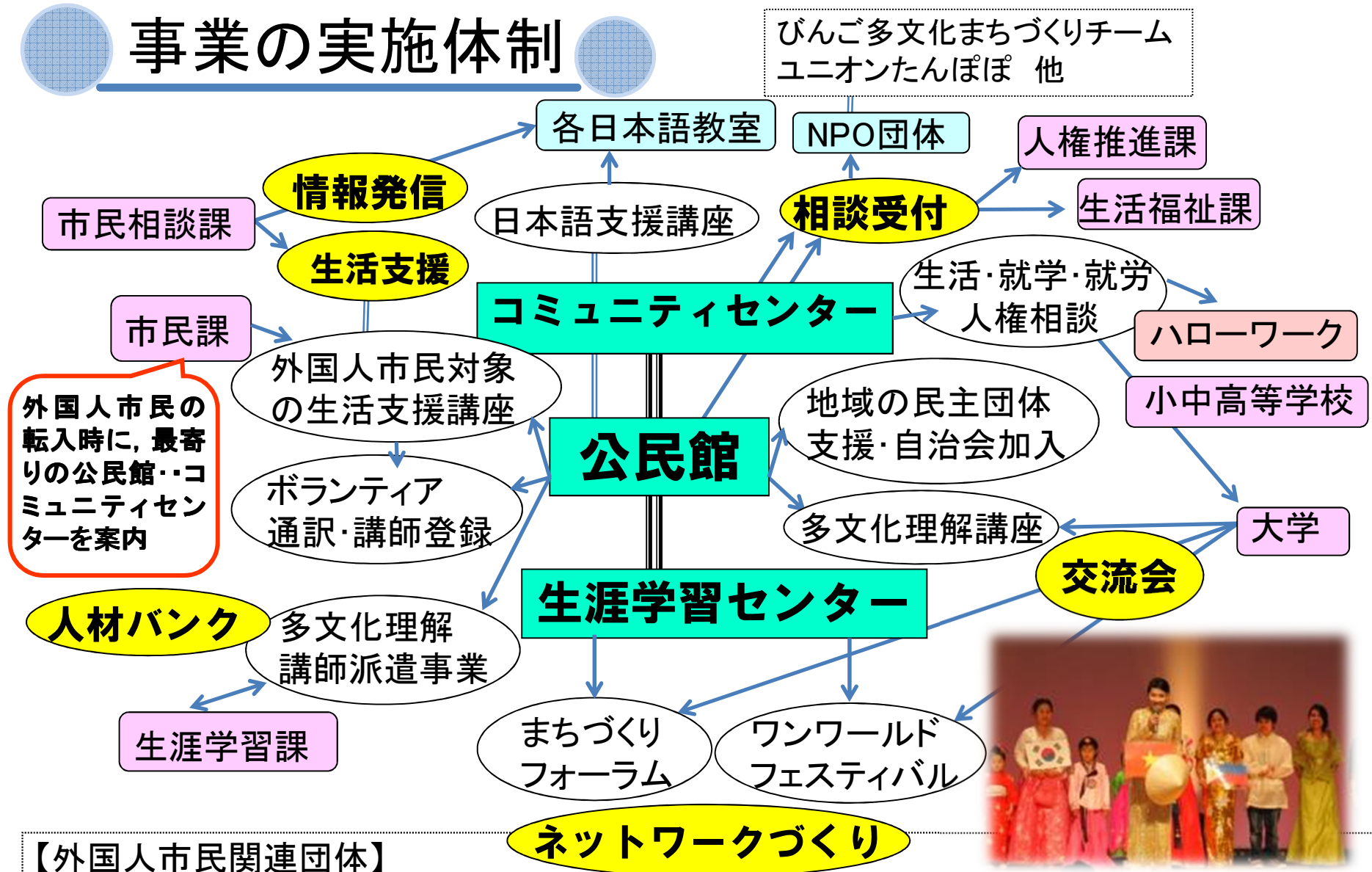


地域住民

- 公民館の「多文化共生講座」へ参加
- 地域の外国人市民を知る
- 外国人市民が参加しやすいように地域の行事を企画する
- 日本語支援者・生活支援者講座へ参加し、活動始める
- フォーラムやイベントへの参加
- 異文化理解がすすみ、多文化共生社会の実現をめざす

多様な文化は豊かな社会であり、子どもの頃からの体験で、広い視野を持つことができる

事業の実施体制



【外国人市民関連団体】
 ふくやまベトナムの会・アジアファミリー・F.F.O・福山市中国帰国者の会・中国帰国者をさ
 さえる会・ブラジル人コミュニティ・台湾の会・タイ文化研究会・韓国人コミュニティ・在日韓
 国・朝鮮人の団体 他

今後の展望

多文化共生講座

生活支援者講座

日本語支援者講座

日本語教室の増設

相談体制の充実

多文化共生社会の
大切さを理解



外国人市民と日本人が、お互いの料理を持ち寄り、気軽に集い、**わいわい**と意見交流ができる場がある。

日本の暮らし方講座

地域行事への参画

自治会での活躍

災害時などの共助

講師やボランティアを通しての、やりがい作り

外国人コミュニティ団体の結成し、独自の活動を開始

市民協働で『ふくやま多文化共生センター』を設置！

終わりに

ローラが、福山市がめざす町
についてお話をしますね。



①松永支所の市民課では、**ポルトガル語相談員の対応**で手続きをしました。

②**多言語の便利帳**をもらい、公民館に行ってみることもすすめられました。

③**公民館**に行ってみると、職員の方が**わかりやすい日本語**で話してくれました。

ある外国人市民の家族が福山市へ引っ越して来ました。

④困った時には、同じ国の方が**通訳ボランティア**をしてけると聞きました。

⑤**日本人の生活支援者**も紹介してもらい、子どもの学校からの手紙はいつも読んでもらいます。

⑥日本語を覚えたくて、地域にある**日本語教室**を覚えてもらい、通い始めました。

⑦少し日本語が話せるようになったので、自分の国の話や料理を教える**講師**に登録しました。

⑧日本人の知り合いも増え、**地域のお祭り**にも参加するようになりました。

⑨**自治会**にも入り、**役員**もしてみました。みんなが助けてくれました。

⑩**防災訓練**では、**高齢者**の人を手伝って、**一緒に避難**しました。

⑪**就職**をしようと、近くの**コミュニティセンター**へ相談に行き、**ハローワーク**のことを覚えてもらいました。

⑫子どもが**学校**でいじめられた時、**コミュニティセンター**を通して**学校の先生**とも相談できました。



⑬**子どもの進路**で困った時には、**日本語教室やNPO団体、大学が連携**して、**学校選択や受験勉強**を一緒にしてくれました。

⑭**生涯学習センター**が**フェスティバル**をするというので、**事前の交流会**に参加してみました。

⑮**同じ国の人**がたくさんいて**自分たちでも何かしよう**ということになり、**団体名**もつけました。

⑯**フェスティバルの実行委員会**に入り、**自分の意見**を取り入れてもらうことができました。

⑰新しく引っ越して来た**外国人市民の相談**にものってあげられるようになりました。

⑱私たちの町には、**多くの外国人市民**が暮らすようになりました。

⑲私たち家族は、**ずっと、この町で暮らしていこう**と決めました。

⑳もっと、**交流**ができ、**相談**ができる場として、**日本人やいろいろな国の人**、**行政とも協働**して、「**多文化共生センター**」を作ることを決めました。

外国人市民が、**安心して暮らせる町**は、**子どもから高齢者まで**、**誰もが安心して暮らせるユニバーサルデザイン**の町です。

多文化共生の町は、**ものの見方や考え方の豊かな人びと**を育みます。そのためにも、**地域で暮らす外国人市民とは対等な関係**で、**お互いの力を出し合い**、**多文化共生社会の実現**をめざします。